

「家庭と学校との連携について考える会」 の主な意見について

令和8年（2026年）3月

家庭と学校との連携について考える会

目次

はじめに	1
1 開催概要	2
2 現状とめざす姿、意見や方向性	4
(1)目的の共有	4
(2)信頼関係の構築	8
(3)PTA・保護者会等の組織運営	12
(4)地域を含めたネットワーク化	15
あとがき	18

※ 資料 （アンケート結果）

本冊子は、「家庭と学校との連携について考える会」において行われた意見交換の記録を事務局が整理したものです。

は じ め に

こどもたち一人ひとりが健やかに成長し、未来へとつながる豊かな学びを積み重ねていくためには、学校だけで全てを担うのではなく、家庭・地域を含む社会全体が互いにに関わり合い、協力しながら教育に取り組む必要があります。

その中でも PTA は、学校行事の運営や環境整備への協力といった直接的な支援だけでなく、保護者同士の学び合いや地域社会との連携を通して、自主的かつ主体的に活動を展開しており、これらの取組により、熊本市の教育の振興において重要な役割を果たしてきました。

しかし、近年では、PTA への加入者数の減少が全国的にも熊本市にもみられるようになりました。その要因としては、複合的なものと考えられますが、コロナ禍の影響で PTA 活動が縮小され、関わる保護者の意識や関心が薄れたことが要因の一つと考えます。

また、PTA の入退会に関わる過去の訴訟などを踏まえ、各学校の対応に法的な問題が生じないよう、教育委員会が発出した文書などにより、学校や家庭において、PTA は任意加入であることの認識が定着したことも加入減少の一因と考えられます。

一方で、PTA から、これまでの PTA 組織とは異なる保護者会へと移行し活動を継続する団体も見られる状況にあり、熊本市でも多様な形で家庭と学校が連携する取組が行われています。

こうした現状をふまえ、熊本市の教育に関わる多様な立場の方々に参加していただき、家庭と学校との連携のあり方等についてそれぞれの立場で意見やアイデアを出し合うなど、共に考える場として「家庭と学校との連携について考える会」が立ち上げられました。

この会では、PTA を含む家庭と学校の連携に係る現状や課題を共有し、連携の活性化につなげることに関する意見交換を、全 5 回にわたり開催しました。

本冊子が、学校や保護者はもとより、地域や関係団体など、こどもたちを支える関係者が互いを大切なパートナーとして協力して取り組んでいくための、今後の活動や運営の参考となれば幸いです。

I 開催概要

(1) 趣旨

学校教育の振興を図るため、「熊本市家庭と学校との連携について考える会」を開催し、以下の事項について意見交換を行った。

- ・ 家庭と学校との連携に関すること
- ・ 本市 PTA に関すること
- ・ その他必要な事項

(2) 開催状況（全 5 回）

回	日時・ 場所	テーマ	内容
第 1 回	令和 7 年 8 月 27 日 教育センター	現状共有と 意見交換	・ 各出席者がそれぞれの立場で、家庭と学校との連携に関する現状の報告や意見が交わされた。 ・ 本市の現状を把握するため、学校へのアンケート実施が必要との意見が出された。
第 2 回	令和 7 年 10 月 8 日 教育センター	アンケート 内容について	・ 市立小・中・ 特別支援学校の全保護者・ 全教職員を対象としたアンケートの内容について意見が交わされた。
第 3 回	令和 7 年 11 月 18 日 教育センター	アンケート 結果を踏まえて	・ 10 月末に実施したアンケート結果を踏まえ様々な意見が出された。
第 4 回	令和 8 年 1 月 15 日 未来会議室	これからの 連携について	・ 教育イベント（Kumamoto Education Week）において、連携の必要性や意義、PTA 等の組織の役割、また、今後の連携の方向性について様々なアイデアや意見が出された。
第 5 回	令和 8 年 3 月 16 日 教育センター	まとめ	・ 全 4 回での主な意見を記載した冊子の内容について意見が出された。

(3) 出席者

氏名	役職・所属
藤井 美保 【座長】	熊本大学教育学部准教授
友村 幸雅	熊本市 PTA 協議会会長
北川 哉	熊本市 PTA 協議会副会長
中村 理絵	熊本市 PTA 協議会副会長
田中 慎一朗	校長（出水南中学校）
中山 和臣	校長（託麻西小学校）
神崎 由佳	保護者
岩井 絵夢	保護者
米村 幸洋 片山 淳一 （第 1 回代理出席）	保護者 保護者

2 現状とめざす姿、意見や方向性

本章では、各会での出席者の意見と、市立の小・中学校・特別支援学校の保護者や教職員を対象に実施したアンケートの回答を基に、①目的の共有、②信頼関係、③PTA・保護者会等の組織運営、④地域を含めたネットワーク化の四つの観点に区分し、現状を踏まえて「めざす姿」、「出席者の意見」、「家庭と学校との連携に関するアンケートでの意見」、「方向性（取組例）」について整理しました。

(1) 目的の共有

家庭と学校との連携は、「こどもの成長と幸せを共に支えること」を目的とするものであるという意見が、多くの委員から示されました。

また、その目的や意義について家庭と学校とが、様々な機会を通じて丁寧に共有していくことが重要ではないかといった意見が出されました。

めざす姿	- 家庭と学校とが連携する目的は「こどもの成長と幸せを共に支えること」であることを、家庭と学校とが共通認識のもと、活動している。 - 家庭と学校とが、連携する目的や意義について、様々な機会を通じて互いに共有している。 - 各団体で、連携の目的を明確にし、情報提供に努めている。
出席者の意見 (主なもの)	【保護者1】 - 家庭によって違うとは思いますが、社会でやっていくときに子どもたちが困らないためにどうしていくのかを考えるのが私たち大人の務めだと思います。目的をもってPTA活動しておられる方はいいと思いますが、いやいやながらやっている姿を子どもに見せる教育はよくないし、責任が持てないのならすべきではないと思います。 - 共通認識をもってもらうため、保護者には連携する必要性について、ある程度学級懇談会で説明した方がいいと考えます。 - 連携をどの程度重要視しているかは、個人でかなり変わるのではないのでしょうか。 【保護者2】 - まずは、目的を共有するという概念すらありませんでした。今回、多様な立場の方の意見を聞いたことで、互いに話を聞き、思っていることを気軽に話し合える環境、関係性になることが大切なのかなと考えました。

出席者の意見 (主なもの)	▪ そもそも「本当の意味での連携」ということを考えている保護者や先生方はどれくらいいらっしゃるのでしょうか。こどものより良い幸せのための「連携」で、どんなことをしていけばよいかを考え続け、実際に行動を起こすことが大切だと感じました。 ▪ 「活動ありきだと必要性などに目がいかなくなると思います」（アンケート回答）について、私自身も PTA のことがよくわかっていない中でマイナスイメージがありました。知ろうともしない人が多い中だからこそ、PTA を存続していくためには、必要性をしっかりと周知して、いろいろと苦勞して活動している方、まっとうされている人たちが報われるような仕組みづくりが必要だと思います。 【熊本市 PTA 協議会副会長】 ▪ 様々な対応により、本来の学校がすべきことができにくい状況があり、学校は先生方を守らなくてはいけない、保護者は相談したいが聞いてくれるところがなく、「かべ」ができるのではないのでしょうか。学校の負担を減らすためにも、そこを何とかする、PTA に限らず家庭の中の組織、合議制をもった団体が必要だと思います。 ▪ 保護者が「やりたい」と思って活動するものにしたいと考え、保護者の皆さんには「持続可能な活動を」と呼びかけています。私の場合は、こども・保護者・地域を「つなぎたい」という思いが最初にあります、ちっちゃい喜びをつないでいきたいです。 【保護者 3】 ▪ コロナ渦により PTA 活動が全くできなくなり、保護者相互の連帯が薄れてしまい、継承されませんでした。しかし、保護者同士の連帯、保護者と学校との連携、また地域の団体との連携を意識しながら、もっと活動しやすい形の組織に変えるために、専門家や関係団体の方々、近隣校とも情報交換の場を設けました。 ▪ 学校も保護者も協力できないという悲しい現状もありましたが、そこを踏みとどまらないうと、学校と保護者の間に「かべ」ができてしまうと思い校長室に入りました。そういう関係は誰かが続けていかなければいけないと思うので、PTA として解散しても、団体（保護者会）を継承していくことは大事だと思います。 ▪ 教育委員会が考える家庭と学校とが連携する目的を明示していただければ、その実現に向けて各立場でできることをすればよいと考えます。
------------------	--

出席者の意見 (主なもの)	【校長 1】 ▪ 教師と保護者とは見えている世界が違って、保護者の方は、縦軸の中で子どもを育てられている。その子の育ちの部分は、保護者の方の目を借りないと分かりません。一方で教師は、保護者の方々が見えづらい集団での姿（横軸）を見ています。お互いが見えていないところがあるからこそ、連携して共に教育をしていくというようなイメージです。 ▪ 子どもを共に育てるパートナー、相談できるパートナーとして学校の中にいてほしいのが PTA です。保護者の方々の全体的な考え方とか、つぶやきなども拾っていただけるので、保護者代表の方がいるということは学校としてもありがたいです。 ▪ 連携は、学校のためにあるものでもなく、家庭のためにもなく、「子ども」のためにあるということを忘れないようにしたいです。 【校長 2】 ▪ PTA の意義は、社会教育、生涯教育の場であると思います。目的は「学校の子どもたちのために」ではあるが、実際は保護者の方たち同士がつながったり、その結果家庭教育力を向上させたりと、副産物が非常に大きいと思います。 ▪ PTA は任意団体で、目的を明確に持っている人たちが集まっているのだから、「自分たちは何をやりたいのか」というところを、明確にするような組織でないと、持続可能にはならないと思います。 ▪ 「こどもの育ちと一緒に喜んでいくこと」が本来の目的だと思います。そのために連携をするということを改めて考えたので、この考えが熊本市に浸透していくといいなと思っています。 【熊本市 PTA 協議会会長】 ▪ PTA 活動は子どもたちにとっての居場所づくりだと思います。私自身、親以外の方（故郷）にも育ててもらったと感じています。自分の子どもたちが、この地域に住み育っていく中で、学校・地域・PTA が連携して、子どもたちが故郷を感じてほしいと願っています。 ▪ 市 PTA 協議会は、単位 PTA の上部団体ではなく、みんなと同じ（対等な）関係性です。問題があった時は状況を把握し、協議会の中でみなさんに共有し、学校、地域に協力できる関係性を作っていきたいと思っています。
--------------------------	--

出席者の意見 (主なもの)	▪ 決められた教育カリキュラム内容だけでは、こどもたちが将来社会にでたときに必要な社会性を育むには限界があると思います。だからこそ、個人ではなく学校や保護者を含めた地域でこどもたちを育てていこうとする意識は必要だと思います。まずは出来ることから。学校と保護者の立場をお互いが理解しながら、対話をもってこどもたちの自立をサポートしていく必要があります。
家庭と学校との連携に関するアンケートでの意見 (対象：保護者・教職員)	▪ こどもの成長のためという、同じ目的に向けて連絡し合う体制が必要だと思います。 ▪ シンプルに、こどもたちのためにと積極的に動き、他の保護者たちと何かをするのは楽しいです。 ▪ 保護者と協力し教育活動を進めることで、こどもの学びや学校生活がより充実すると考えます。 ▪ 先生方のニーズを聞き、保護者でこどもたちに経験させたいことを学校と一緒に連携して取り組む活動は、実施していて必要だと感じています。
方向性 (取組例)	・ 家庭では、学校の取組やねらいへの理解を深めるために積極的に情報を収集するとともに目的を共有し、面談・懇談会等の機会を通して、家庭の状況や思いを伝えるように努める。 ・ 学校では、年度当初に「育てたいこども像」や「連携の目的」を分かりやすく示し、各種活動はその目的を達成するための手段であることを丁寧に共有する。また、保護者が安心して相談等ができるような環境づくりに努める。 ・ 地域の見守りや学びの場の取組が「こども中心」という目的につながっていることを、地域・学校・保護者が共通理解し、可能な範囲で参画していく。 ・ 教育委員会は、連携の意義や事例を分かりやすく発信し、家庭と学校が目的を共有できるよう、学校に対して積極的にリードする。

(2) 信頼関係の構築

信頼関係の構築は、家庭と学校との連携を強化するためには大変重要な要素であり、組織運営や活動の持続に深く関わる課題であることが示されました。その上で、どのようにすれば信頼関係が築けるのか、といった内容に関わる意見が多く聞かれました。必要なこととして、次のような意見が出されました。

めざす姿	・ 保護者、教職員ともに相談・対話の機会を確保するよう努めている。 ・ 保護者が、学校に対して安心して相談したり、声を届けたりしている。 ・ 家庭と学校とで、協働して行うことが信頼関係につながることを意識して活動を行っている。
出席者の意見 (主なもの)	【保護者１】 ・ 先生も保護者も「思い込み」を隣に置いて、一旦立ち止まって「客観的に考える」ことを心掛けてみる必要があるのではないかと考えます。 ・ 私たち大人がこどもたちの行動の背景を読む努力もせず、一方的に叱りつけたりすると、こどもが本当は伝えたい事があるのに、「止めておこう」となるので、しっかり感情と状況の整理をしながら対話をするのが、大切な部分になると思います。 ・ 気付いたことは学校に報告することが大切だと思います。自分のこどもだけでなく、他のお子様で気づいたことについては学校へ情報提供を行う。その後然るべき機関へ連携するか否かの判断は学校だと思っています。 ・ 信頼関係を築くためにも、私たちは”クリティカルシンキング”の思考で、「このことはこれでいいのか」「別の視点はないか」と、論理的かつ客観的に物事をとらえるような、誰もが”自ら考えて行動していく”姿勢が必要だと思います。 【保護者２】 ・ 信頼関係を構築できたと思っても、教職員が異動してしまうとなると毎回保護者側も連携をとるエネルギーが続かなかったり、異動してしまうからという事で関係を築くのを躊躇してしまうなどもあるので、先生方（特に管理職）の異動の頻度や期間をもう少し長くしてほしいです。 ・ 連携のための協力体制として、様々な立場の方がいるという事を考えてフレキシブルに対応できる「協力」という形を作っていくべきだと改めて強く感じました。いろんな人が連携のためにまず

出席者の意見 (主なもの)	は「協力しやすい」仕組み作りが大事だなと思ったし、それが持続可能な「連携」という形に繋がっていくのではないかと考えました。 ・ 保護者と学校の関係において、まずは、歩み寄る、そして知ろうと努力をすることが大事だなと強く思いました。 【熊本市 PTA 協議会副会長】 ・ 「何をしているのか分からない」ではなく、情報を自ら取りに行き、自分たちがどんな時に助けられ、どこで助け合い生きているかを知る必要が、皆にあるように思います。助け合っているそれぞれが多様な意見に寄り添い、感謝し合い、信頼関係を構築せざるを得ない状況にあるのではないのでしょうか。 ・ 簡素化できるところは見直しや廃止が必要だと思いますが、信頼関係等の人の心を動かすことに関しては、外したりせずに懇切丁寧に行っていく必要があると思います。 ・ 保護者は、先生方と話す機会を求めていると思います。その機会はどこにあるかという、授業参観や学級懇談会です。最近見ているとご両親で授業参観に参加される保護者が多い一方、懇談会になると、すごく参加が少ない状況です。午前中に授業参観をされたときに、いつも朝から学校に来ない子が朝から登校し、お昼のマルシェでご飯を食べようと言って長く学校にいたという事例がありました。朝から授業参観することで、日頃学校に足が向かない子たちにとっては、午後にマルシェで保護者や先生方と同じ時間を共有することにつながり、こんなに画期的なんだ、と感じました。 ・ 私たちは（PTA は）、他の保護者さんの声を校長先生に伝える役目だと思っています。直接伝えに行かれる方もいらっしゃいますが、「このクラスの先生のこの授業でこういうことが起こった」ということを複数の保護者から聞いたら、「こんな話が出ておりますが」と伝えるようにしています。逆に、校長先生の方からは、「こんなことを少し耳に挟んだけど、保護者の中ではどんなふうになっていますか？」という情報共有もできます。私たちは（いつも執行部のメンバーに）気をつけてほしいと言っているのは（執行部のメンバーが、声をあげている保護者に）同調するなと言っています。先生には、「そういう声があるんだね」と会長を通じて校長先生に伝えてもらうというような流れを作っています。
--------------------------	---

出席者の意見 (主なもの)	【保護者３】 ・ 学校と家庭の話であれば、各個人の問題が大きいところがあると考えます。関わりを持とうとしない保護者も少なからずいるのは事実だと思います。 ・ 学校とはこれまでと変わらず協力して子ども達の豊かな人生のために協力していきたいと考えています。校長、教頭が異動すれば、できていたことができなくなる実情があることを知っていてほしいです。 ・ 保護者会でできることは、子どもと学校との関わりをより深くしていくことと考えています。部活動がないため、特定の子や保護者との関係性しか築けないことから、そのコミュニティのひとつとなればと考えて活動しています。 【校長Ⅰ】 ・ （信頼関係を深めるには）子どもに対し自分が通う学校がどのような実践を行っているのか、見えるようにすることが大事だと考えます。家庭へは子どもを通じて、学校が行っていることが伝わる、というような対話を中心に据えた学校づくりが大切だと思います。 ・ 10年後、家庭と学校の在り方がどうあるかを念頭において議論しなければならないと思います。PTA等の保護者の集まりは必要だと感じています。なぜかという、学校と家庭が連携することにより、①監督機能②共助機能③教育機能の3つが生まれると思うからです。私が見えていない部分はあると思っているので、そこを見てくださっていると、良い関係を築いていけば、いけないところはきちんと言ってくれるというような機能により補完されます。家庭と学校とが連携して初めて、教育は効果が出ます。「子どもが生活する場が切れ目なくつながる」子どもまんなか社会を言うのであれば、連携こそが大きなポイントであると考えます。 ・ 保護者の方々として手続きを経た代表がいることは、相談相手がいる等の意味で、校長としてはとてもありがたいことです。そうであれば連携はとっていいと思います。保護者の方々の全体的な考え方とか、つぶやきなども拾っていいので、代表の方がいるということは学校としてもありがたいことだと思います。
--------------------------	---

出席者の意見 (主なもの)	【校長 2】 ・ 保護者の語り場を、学校主催ではなく保護者が「自分たちで開催してもいいか」という声が保護者の方から上がってきました。当然構わないし、とてもいいことだと思います。ただ、どのようなことが話されているのかを知る意味で、教頭が同席するようにしています。 ・ 保護者の方が、感じられていることを伝えたいと思って、学校に提案が多く寄せられることがあります。それは嬉しいことです。一方で PTA があった頃は、そこで学校に届ける必要がないようなものは淘汰されていくような場面はあったと思います。 ・ 「しなきゃいけないからやる」ではなく「やりたいからやる」など、いかに当事者として必要感を感じるかが大事だと思います。つながりの中で「こんなこと一緒にやってみたい」ということを例えば PTA 会長が言い出すとします。一律に同じものをつくるというのではなく、「どんなことやりたいの」「だったらこの地域のこういう力を使ったらすごいことができるんじゃない」となれば当事者となった人たちに入っていくやすいと思います。必要感がないところに「こうしたら」「ああしたら」と言っても入っていかないと思います。 【熊本市 PTA 協議会会長】 ・ 現在は、保護者も教職員も対話や交流が必要だと考えています。その機会づくりに上手くいっている学校が少ないように感じます。お互いの時間が合いにくい、という課題を解消するために、今の授業参観や懇談会のスタイルを変えることで、参加しやすい授業スタイルなどを創出していくことが重要だと思います。 ・ PTA 等で行っている学年活動を授業の一環でやるなど、懇親を深めやすい場づくりを積極的な対話をもって話し合い構築することで信頼関係が深まると思います。 ・ この「家庭と学校との連携について考える会」を通して、それぞれの立場を知ること、知ろうとすることの大切さを知り、対話をもって理解し合えることが多くあるのではと感じました。そのため、対話の中では、“できない理由”ではなく、“できることは何か”を見つけながら考えていきたいと感じました。
--------------------------	--

家庭と学校との連携に関するアンケートでの意見 (対象：保護者・教職員)	・ 保護者と教職員が顔を合わせるイベント的な行事を設けることで、保護者と教職員の距離が縮まり、信頼関係の構築につながると思います。 ・ 保護者が相談しやすい窓口と時間を確保すると、保護者にとって安心につながると思います。 ・ 家庭と学校とが連携するメリットを発信し、つながり合うことの安心や楽しさが感じられ、互いの信頼関係を築くことが必要だと思います。
方向性 (取組例)	・ 信頼関係を築くには、常にお互いを尊重し合って対話することが大切で、“対話の場を閉じない姿勢”が求められる。 ・ 学校は学級担任だけでなく、相談できる人が複数いることを保護者に向けて周知し、受けた情報を共有しやすい体制を整える。 ・ 家庭と学校では、共有した目的に向かって協働的に活動することで、信頼関係を深める契機となる。

(3) PTA・保護者会等の組織運営

現状では、PTAとして活動する学校、保護者会へ移行した学校、PTAがない学校など実態が分かれており、会員数の減少や役員のなり手不足等により運営が難しくなっている団体もあります。

活動の活性化につなげていくために、実態に応じた運営の仕方や、今後改善していくべき点等について、各委員から様々な意見が出されました。

めざす姿	・ 組織への加入や活動への参加において、任意性が周知されている。 ・ 参加しやすい体制づくりや、役員の負担軽減が図られている。 ・ PTA・保護者会等の会費の使い方や個人情報の取扱が適切になされている。
出席者の意見 (主なもの)	【熊本市 PTA 協議会会長】 ・ PTA 役員や興味がある人は、PTA の活動内容をよく知っているが、それ以外の人にはわかっていないと感じます。皆さんに PTA のことを知ってもらうような活動をする必要があると思います。 ・ PTA 会長として、これまで慣例的になっていた PTA の活動を、本来あるべき姿を考えながら、変えていこうとしています。 ・ 熊本市 PTA 協議会としては、任意加入であることや個人情報の扱いなど、重要なことができていないケースがあることや、PTA 活

出席者の意見 (主なもの)	動に不信感をもつ声があることを共有しながら、各学校に周知していきたいです。 【保護者１】 ・ 入学の時、PTAに個人情報と渡すことの承諾書を渡され、それに回答していないのにこども会から電話がありました。その後、任意団体であるはずのPTA役員決めについて、プリントで決定済のお知らせが届いた。「任意団体であるので、私は入りません。」と伝え、自分はおそらく小学校初の非加入の保護者となりました。そのような運営がなされていると、加入者も減っていくのではないかと思います。 ・ 加入している方でもアンケートでは、強制・義務感、同調圧力を感じている方は約20%もいて、いやいややっている人が少なからずいます。そのような組織であれば、一旦壊して、スクラップ&ビルドするべきです。本来の目的を見直す必要があると思います。 ・ お金の面で透明性がないと感じています。中学校に部活動振興費として4000円があり、それを部活動総会の時に提出するように言われました。その4000円の用途について事前に説明も何もありませんでした。 ・ 第三者機関の必要性がアンケート結果からもわかるかと思いますが、私としては個人情報の扱いと金銭管理は第三者機関が窓口になってくれたらいいと思います。 【保護者２】 ・ 平成28年に当時のPTA会長が「強制加入は廃止」という方針を出されてから会員が減っていき、もっと活動しやすい形の組織に変えるために、専門家や関係団体の方々、近隣校とも情報交換の場を設けてきました。そして、全保護者にアンケート調査を行い、臨時総会を開催して、PTAの解散という決議をしました。また、PTAに代わるものを「保護者会」とした。前向きな解散ではありましたが、我々としては苦渋の決断でありました。 ・ まだ「保護者会」ができたばかりなので様々な例を参考にし、保護者同士の連携、地域との連携、そしてこどもたちが中心となるような活動に取り組んでいるところです。 ・ PTAの在り方について変革の時期にあることを認識し、教育委員会を中心として困っている団体（学校）はないのか等についてヒ
--------------------------	--

出席者の意見 (主なもの)	アリングを行っていただきたいです。その結果、保護者会への移行を検討している団体があれば協力したいと考えています。 【熊本市 PTA 協議会副会長 1】 - 保護者が PTA 活動の何を負担と感じているかを知るためアンケートを行い、「委員会活動」であることが分かりました。そこで、①PTA 会費も払い、委員会活動もする ②会費は払うが委員会活動はしない ③両方なし から選んでもらうようにしました。 - PTA 会費の使われ方が不透明だという問題がある。これに対しては、例えば「〇〇は PTA 会費から出ています。」などをわかりやすく伝えるようにしています。 【熊本市 PTA 協議会副会長 2】 - アンケート結果で、PTA に対して強制・義務感を感じている人がいることについては、任意加入を周知するだけでなく、PTA の意義や活動への理解が必要で、研修などを行うことで趣旨理解を求める必要があると思います。 - 外部機関に委託できるところがあるとして、公的資金を出すなどが可能であればお願いしたいです。そうなるとすごく楽だし安心感が得られると思います。 - 教育委員会は任意加入を謳った文章だけでなく、保護者組織の重要性や強制的でない協力の呼びかけ方の工夫などを市 P 協議会と一緒に取り組んでほしいです。 【校長 1】 - PTA が一人一役のやり方をやめ、「参加したい人はどうぞ」「参加しないもあり」と方針を転換されましたが、結果は心配したほどではありませんでした。いろんなありようを認め始めたところから PTA の雰囲気が変わり始めたように思います。「こんなにいいんじゃないの」ということで、会費も下げられました。組織自体が適正になってきていると感じます。
------------------	---

家庭と学校との連携に関するアンケートでの意見 (対象：保護者・教職員)	・ 役員の負担が大きすぎて、時代に合っていないと感じる。誰もが無理なくできる範囲での活動がちょうどいいと思います。 ・ 任意加入なのに、その点をはっきりしないまま加入させられたことに不信感がありました。 ・ 仕事で PTA の参加が難しいので、保護者にお金がかかってもいいので外部に委託できるものは委託してもいいのではないのでしょうか。
方向性 (取組例)	・ PTA や保護者会等では、会の目的を踏まえて活動内容を見直し、参加しやすい運営の在り方を模索する。 また、加入への任意性や個人情報の扱い、会費の使い方などについて、十分な周知を図る。 さらに、運営の委託や第三者機関との連携などの可能性を検討する。 ・ 学校においては、PTA や保護者会等に行事等の協力を求める際に、目的や必要性を互いに共有するとともに、連携して取り組んだ意義や効果について周知していく。 ・ 教育委員会は、各学校に対して任意性の周知だけでなく、PTA や保護者会等の意義やこれまで担ってきた役割の重要性も伝える。 また、市 PTA 協議会と連携して各団体の運営状況を把握し、必要に応じて助言等を行う。

(4) 地域を含めたネットワーク化

家庭の多様化等により、教育や生活に関するニーズは複雑化しています。家庭と学校だけでは十分に支えきれない場面も生じており、家庭と学校に加えて、地域の団体や人材、活動の場とつながるネットワークは、こどもの安心と学びを支える基盤として重要との意見が出されました。

めざす姿	・ 学校、PTA、保護者会等、地域の団体との連携の仕組みが確立されていて、スムーズな連携がなされている。 ・ こどもや保護者が地域の諸団体や地域企業等からの支えを実感できている。
------	--

出席者の意見 (主なもの)	【保護者 1】 ・ 地域差や校長が変われば内容も変わってくるとのことなので、常に「最適解」を考えるしかないと思います。地域 A で上手くいったことが、地域 X で上手くいくとは限らない。PTA がないと機能しない地域や、なくても上手くいく地域がある。それで快適に過ごすことができればよいと思います。 ・ 学校(校長)や地域によって変わるので、どんなことで協力体制を取りたいかどうかは地域の状況次第なので、その地域の最適解がその地域の正解だと思います。 【熊本市 PTA 協議会副会長】 ・ 学校と家庭が児童生徒の教育の当事者であることの認識を持ち、地域に感謝しながら助けてもらう体制を整えれば、地域は自ずと助けてくれる。現段階でも、校区の各種団体との地域ネットワークはできていると感じています。 ・ 地域の各種団体の担い手は不足（高齢化等）しているが、こどもたちを地域で育て守るという思いは強い。こどもたちがその各種団体に守っていただいている感謝を表すことは、学校の代表者（校長）と保護者の代表者（PTA 会長等）が密に連絡を取り合い信頼を構築するしかないと思います。 【保護者 2】 ・ 地域には、子ども会や自治会が存在しており、それらの活動を妨げる意向はなく、むしろ共存したいと考えている。会長同士の連携は必須であり、継承事項と考えています。 【校長 1】 ・ 青少年育成協議会等の地域の会との連携をベースにこどもたちにとってのふるさとづくりを始めることが必要です。 ・ 本校では PTA 組織があるので、組織間での協力が積極的に図られている。PTA があると、共に子を育てる視点で体制構築が容易です。 【熊本市 PTA 協議会会長】 ・ 保護者がこどもたちの見守りや防犯を含めた登校・下校に地域の方々が関わってくれていることを知り感謝できるような機会づくりが大切だと考えます。
------------------	---

出席者の意見 (主なもの)	- 各家庭では限界があり、地域の方々に感謝する風土づくりがネットワーク化をすすめる中で重要かと思う。感謝を知ることでは自分が担うという形ができないかと思います。 - 熊本県内で授業に地域の方がサポートで入るなど連携を深めている例もあるので、小学校区での良い調和できるネットワークづくりは学校側発信でどのようにもなると感じる。地域に頼ることでその負担の一部を取り除きながら結束が深まるのではと考えます。 【校長 2】 - いろんな行事で地域の方が活動を通して、同じ体験をすることで、あるいは同じ時間に同じ子どもたちの表情を見ることで、対話が生まれて「あの表情をもう一度作りたいですね」というものが望ましいつながりだと思います。
家庭と学校との連携に関するアンケートでの意見 (対象：保護者・教職員)	- 子どもが自身で相談出来る場所が地域に無いため、学校と家庭以外でも支えられる相談場所が地域にも出来ると良いと思います。 - 学校が PTA や地域とつながりが薄いように感じるので、もっと協力し合えたらと思います。 - 地域と保護者をつなぐ緩やかな交流の場を設置できればと思います。 - 地域行事や奉仕活動に学校が積極的に参加することが必要だと思います。 - 学校と家庭と地域で子どもを育てることが最も健全な考え方だと思います。その連携を保つためには、PTA の存在は必要だと考えています。
方向性 (取組例)	- 家庭では、地域の見守り等に関わる方々の思いを子どもたちに伝え、可能な範囲で地域行事・取組への参加に努める。 - 学校では、地域の役割や活動を学校から紹介するなど、子どもや保護者が地域と連携できるかたちをつくるよう努める。 - 地域には、学校・家庭と対話し、無理のない範囲で見守り・学習支援等に関わっていただくようお願いする。 - 教育委員会では、学校、家庭、地域の連携に関する好事例の収集とともに情報共有に努める。

あ と が き

本会を通じて改めて確認されたのは、家庭と学校との連携は、特定の組織の存続や活動量の多寡を目的とするものではなく、こどもを中心に、日常の対話と相互理解を積み重ねながら、学びと育ちを切れ目なく支えるための基盤である、ということです。

連携のかたちは一様ではなく、地域や学校の実情に応じて多様であってよい一方で、目的を共有し、信頼関係を育み、無理のない参画を可能にする仕組みを整えていくことが、持続可能性の鍵となります。

学校・家庭・PTA等の保護者組織・地域が、互いを尊重し合うパートナーとして協働できるよう、任意性への配慮と透明性の確保を前提として、好事例の共有、PTAや保護者会等の意義や役割の重要性の周知、相談・調整のあり方の検討など、環境づくりを進めていくことが必要と考えます。

本冊子が、各学校・地域の実情に応じた「こどもを中心にした連携」を前へ進める一助となることを期待します。

※ 資料 [（アンケート結果）](#)

問い合わせ先:家庭と学校との連携について考える会事務局

(熊本市教育委員会事務局 教育総務部 地域教育推進課)

電話:328-2276